

# 北陸大学ライブラリーセンター報

Bulletin NO.31

⇒ をクリックすると本文がご覧になれます。

⇒ 書物のユートピア

村田 和弘  
(学術資料部長・未来創造学部教授)

## 利用学生の声

⇒ 大切なもの

岸本 彩  
(薬学部 薬学科 1年次生)

⇒ 私の読書体験

岩瀬 継範  
(未来創造学部 国際マネジメント学科 2年次生)

⇒ 「当初感」を味わおう

紀 聖臨  
(未来創造学部 国際教養学科 4年次生)

⇒ 寄贈図書

⇒ 学生選書会

⇒ 卒業記念寄贈図書

⇒ 平成23年度学術資料委員紹介

⇒ 目次

# HOKURIKU UNIVERSITY LIBRARY CENTER

北陸大学ライブラリーセンター報



## 書物のユートピア

学術資料部長・未来創造学部教授 村田 和弘



現代中国映画論を志すなら必ず参照すべき二人の人物がいる。一人は藤井省三氏。藤井氏は魯迅研究が本職だが、中国映画、台湾文学、さらに中華圏における村上春樹受容研究の第一人者でもある。村上文学の中に見える中国の影を論じたものもある。もう一人は四方田犬彦氏。四方田氏は文化人類学、宗教学の徒だが、中国映画の精緻な分析は、つとに名高い。その四方田氏が、師である由良君美から「裏切り」とされた師弟関係を「悪魔祓い」するために解剖した本『先生とわたし』（新潮文庫）を、最近ようやく読んだ。校務にかまけて読書を怠りがちだったが、久々に没頭して一気に読むという幸福な時間を過ごした。四方田氏の知的背景と映画論との切り結びは今は措こう。本書の中で四方田氏が人文的教養について述べた個所がある。引用して紹介しよう。

「だがわたしを含めてゼミ生が受け取ったのは、そうした文芸理論における最先端の方法論である以上に、彼が身につけている知的スタイルであり、書物を前にしたときの道徳とでもいうべきものだった。……彼は書物を情報の集積物としてのみ遇することを軽蔑した。書物はまずは質量をもったオブジェであり、整理カードや検索機に還元できない、非能率的な何物かではなければならなかった。」（「第5章 ウェルギリウス」より）

ここには文字通り書物を人格として扱う姿勢が謳われている。読書とは書物の持つ人格とそれを読む者の人格との邂逅であり、したがって読書前と読書後とで同じでいられることなどない。書林を「書物のユートピア」と観想するこのような感覚は、懐かしささえ覚える程青臭いものだが、しかしどこかで羨望を感じることも禁じえない。それは何か。四方田氏はそれを他から引用しながら「『オルタナティブな視点、議論の深化、解釈共同体の構築、要するに熱い諧謔に裏打ちされた人文教養主義』である。」（同前）と述べる。ここまできて私は私の恩師の容貌を思い出す。すでに世を去られた方もおられるが、どの恩師も寛容にも非才たる私に「書物のユートピア」を提供し続けてくれたではないか。私はそれを学生諸君に提供できているだろうか。

ゲーテの「ファウスト」に登場する「メフィストフェレスのように」知の世界へと誘い、「ファウストのように」圧倒的な知を誇るカリスマを、四方田氏が個人的体験による特権として祭り上げるのではなく、書き手として透明な文体を堅持して描いているところは、特筆すべき点である。おかげで読者は四方田氏の感情のスクリーンを通してではなく、直接由良氏と相対しているような錯覚に陥ることができる。日本的私小説の感情の押し付けがましさが嫌いで中国の物語にはまった私には、これはきわめて心地よい自叙伝的物語であった。

これとは異なる意味で書き手のモノローグが印象に残る本を読んだ。リービ英雄の『我的中国』（岩波

現代文庫)である。題名をウォー・タ・チョンクオと読めば、そのまま中国語として通じるどころ、「われてきちゅうごく」と、あえてひらがなのルビが振ってある。作者は、日本に住み日本語で著述活動を行っているアメリカ人である。その中国紀行を日本語で書いている。それを、中国語が分かり、中国を多少なりとも経験したことがある、日本人である私が、読む。この時読書は、錯綜したポリフォニー状況の中に身を置くことと同義になる。作者に同化して読むことは、本来できない。しかし日本語という媒介を通すことにより、私も経験のある中国の地方都市の裏通りの冒険に付き合うことができる。そしてそれが自分の体験の追体験であるかのように思えてくる。だが時として作者は中国の裏通りで違和感を感じる。紅毛碧眼たる異邦人への中国人の視線を作者は極力避けようとするからだ。その時私は作者の傍を離れ、中国人の視線に寄り添うことになる。私は日本人であるがゆえに、中国人の中に紛れて過ごすことのできた体験があるからだ。と同時に私は中国人ではないのだから、彼らの声を作者と同じ立場で聞くはずだ。しかし繰り返すが、私は作者とは同化できない。こうした作者のモノローグを享受する地点から見えてくる中国は、私の見た中国と似ているようで違う。そして読書中、不安定な状態に置かれることが、この本を面白いと感じさせている。読後に、また中国をさまよい歩きたくなる本であった。

私の個人的な読書癖を恥ずかしげもなく縷々述べてきたのは、他ならぬ、その時間が幸福であったからだ。ライブラリセンターが「書物のユートピア」としての機能を果たし、学生諸君が少しでも読書の幸福を感じてくれることを願う。

## 利用学生の声

### 大切なもの

薬学部 薬学科 1年次生 岸本 彩



以前までの私は、図書館へ行くことも読書をすることも、あまり好きではなかった。図書館へ行くときは、友人についていくだけで、特に何をするわけでもなくその空間につっ立っているだけだった。

授業が終了したある日の午後、図書館の近くへ行った。普段の私ならそのまま素通りしていたところを、何故かその日は、ふと行ってみたいくなり、挑戦する気持ちで入ることにした。静寂な空間、心地よい緊張感の中、見えない何かがあるような張りつめた空気。友人と訪れた時には感じなかった新鮮な感覚に感動したのを、今でも覚えている。自習用に設けられたスペースに入り、椅子に腰かけながら、何となく景色を眺めていた。外では、部活動中や帰宅途中の生徒が、それぞれの向かう先へ歩みを進めていた。蝉の鳴き声と共に聞こえる吹奏楽部の演奏が心地よかった。しばらくこの空気に浸っていると、無性に読書がしたい気持ちに駆られて、気づくと本棚の前に立っていた。図書館には様々な書物がある。専門書や辞書、雑誌、小説の類の図書だ。当時の私は読書に関しては初心者であったため、読みやすいものを探して館内を歩き回っていた。そして、以前から挑戦してみようと思っていた小説の類の書物が並んでいる棚の前で、足を止めた。棚の一番上、左隅で横になっていたこの図書こそが、私を変えてくれたといっても過言ではない、大切

なものだ。様々な専門書より小説などのほうがよく読まれていることは、図書のすり減り具合でわかる。その棚にあった小説たちも殆んど借りられていたが、その図書だけは動かされた形跡がなく、少し埃も被っていた。タイトルを見ただけであったが、何故かその図書に惹かれ、思わず手に取った。他のものと比較してページ数が少なく、読みやすかったそれは、初心者の私にはピッタリだった。

自身で選んだ場所に座る。机にそっと図書を置く。深呼吸をすると同時に表紙を開いた。読書中、周囲の音が耳に入ってこないほど、物語の世界へ入り込んでいた。時間が経過するのも忘れ、ひたすら物語を進めていった。どれくらいの時間そこにいたのだろうか。顔をあげると、誰も居なかった。

読み終えた後、気づくと涙が流れ、同時にノスタルジックな気持ちになった。何処か遠くの彼方から、懐かしい声が聞こえた。忘れかけていた幼少期の記憶が全てフラッシュバックし、しばらくの間、空想タイムマシーンに乗り、過去の思い出に浸っていた。

この図書と出会い、新しい自分を発見できた気がした。同時に、もっと早く出会っていたらどんなに良かったかと、強く後悔した。この図書との出会いをきっかけに、私自身、少しずつ変化していった。人を大事に思うことの大切さ。叶はずのない夢でも、いつまでも持ち続ける根気強さ。いずれも、私に欠けていたことだった。そして何よりも、読書をする大切さを学んだ。

あの出会いは、一生忘れることが出来ないであろう。あの日、あの瞬間に、あの図書と出会えたことに感謝している。以来私は、毎日欠かさず読書を行うことにしている。さらに新しい自分と出会い、さらなる感動を求めて。読書をするたびに、幸せな気持ちになる。そして私は、今日も出会いを求めて図書館へ行く。

あなたの大切なものは、見つかりましたか？

## 私の読書体験

未来創造学部 国際マネジメント学科 2年次生 岩瀬 継範



私はこれまで読書とはあまり縁の深い人間ではありませんでした。漫画や雑誌などはすらすらと読むことが出来ましたが、絵や写真などがなく文字だけがずらっと並んだ一冊の本を集中してすべて読み終えるということはなかなか出来ませんでした。

しかし先月、親から送られて来た荷物の中に一冊の本が添えてありました。その本は現在、サッカー日本代表の中心選手として活躍する長谷部誠という選手が出版した『心を整える—勝利をたぐりよせる56の習慣—』という本でした。自分はサッカーをやっていてサッカーをやっている立場としてとても興味深い本で即座に手に取りこの本を読み始めてみました。長谷部選手といえば今年のW杯でキャプテンとしてチームをまとめ日本代表をベスト16まで導き、現在はドイツのヴォルスブルクというチームでレギュラーとしてプレーしています。彼の発言や行動は人を引き寄せる不思議な力を持っており、自分も彼のTVのインタビューなどを聞いていると本当に感心させられます。本を読み始めると「心」という言葉が繰り返し出てきました。「心」という言葉は「メンタル」という言葉にも置き換えることが出来ます。スポーツの世界では「心」を強くするには根性を磨いたり、熱い気持ちを持つことが大切だと言われることがあります。自分はそうだと思っていました。一方の長谷部選手は「心」は整えるもの、簡単に言えばメンテナンスするものだと書いてあり、最初は心を整えるとはどういうことなのか理解に苦しま

した。

しかし本を読み進めてくうちに、心を整えるということは、そういうことなのかとわかってきて読んでいてとても面白く感じました。

長谷部選手の56の習慣のうちの一つに「意識して心を鎮める時間を作る。」という項目があります。これは例えば、朝起きてから寝るまでずっとインターネットやゲームや遊びなどで24時間息をつく暇がないくらい忙しい日々を送っていると、時間が出来た時に、どうしたらいいのか分からなくなり、日々そうやって過ぎていくと自分を見つめる時間もないし心が荒んでいく一方なのではないかと長谷部選手は言っており、彼はそうならないために一日の最後に必ず30分自分の部屋で心を鎮める時間を作っているそうです。これは彼がドイツに移籍した時から始め、当時は多忙な日々の連続で心身ともにクタクタな時に彼が当時読んでいた京セラの創業者、稲盛和夫さんの本の中に「1日に1回深呼吸して必ず心を鎮める時間を作りなさい。」と書いてあり、それを習慣にしたことで彼は今ではどんな葛藤を抱えても翌朝には平常心で部屋を出ることができるようになったそうです。自分の場合、嫌な事や悩み事があつたら、なかなか切り替えることが出来ずにダラダラと引きずってしまうので、この心を整える時間を作るというのは自分にも出来ることなので長谷部選手を見習って、これからは自分の心を整える時間を作ることを習慣化していきたいです。

彼の本は自分が今まで考えたことがないことや、知らなかったことなどがたくさん書いてあったり、これからの人生をどうやったら幸せに生きれるかなどのヒントが長谷部選手がサッカーを通して体験したことを中心に書かれていて、読んでいるうちに夢中になっていて自分でも驚くぐらいの早さで本を読み終えていました。

本を読み終えると、達成感と同時に自分が今まで知らなかった知識や新しい考えを身に付けることが出来て自分が成長できた気分になりました。

本を読むということは漫画や雑誌と違い、文字を読んでいくという単調な作業の繰り返しですが、文字だけだからこそ、自分でどういう場面かを想像したり、作者が読者に何を伝えたいのかなどを自分なりに分析したりと様々な楽しみ方が出来るものなんだと、今回の長谷部選手の本を通して教えてもらったように思います。

今回の経験を通してこれからもっと読書をしていきたいと思います。そしてもっと多くライブラリーセンターを利用したいと思います。

## 「当初感」を味わおう

未来創造学部 国際教養学科 4年次生 紀 聖臨



人間は、意思伝達の達人なものだと思う。というのは、目のあたりにする仲間にしか合図できない動物とは異なり、場所や時間の感覚を超え、考えはもちろん、気持ちさえ大勢の人々にも伝えていけるからである。そのうえ、思想を具象化させる言語を文字に変身させ、書物に形付けて後世に残せるのは、人間にのみできる技であろう。

現代において本を読んだことがない者は、まずいないと思う。それに、人生のどの時期でも本を楽しむことができるだろう。幼児はまったく文字を読めなくても、両親の話聞きながら絵本を読み、嬉し

そんな顔を見せる。また、小学生が漫画熱に浮かされる姿もよく見かける。私は中学生の時、「評書」という昔話の物語に夢中になっており、放課後ラジオ放送の「評書」に間に合うため、家へ急いだことをよく思い出す。それなので、本というものは、「書物」にもなれば、「音声」にもなり、我々に精神的な成長を与えてくれるものだと考えている。

ただし、大学生になると、漫画や小説からの瞬間的な面白さより、本に奥深い意味を求めざるを得ない。場合によっては初めはどうにも腑に落ちないかもしれないが、人生の道を歩みながらじわじわと体得し、やっと「なるほど」と深くうなずく時、当初作者が執筆して湧き出た感動を味わう面白さに感心してならない。

気になる地域文化の中で、ドイツ紀行についてよく出る言葉として「生きている中世都市」、「古き良き時代の面影をとどめる街」などがある。だが、昔の町並みで現代社会の要求を満たせるのかと、なんとなく疑問に思っていた。今年の夏休みに大学のグローバルプログラムから、好奇心に駆られてドイツに行かせてもらった。ドイツに到着後、初めてドイツの社会事情を実感できた。町並みは石造の建築や舗装道路で成り立っているため、長期にわたり生き残れる空間だと気づいた。国全体の発展が安定しているため、大規模に新築することもなさそう。それに、ドイツ人は性格がしっかりしているが、生活がわりとのんびりで、伝統的な祭りや芸能を生かして楽しんでいる。したがって、ゴシック様式の街を散策すると、確かに中世のヨーロッパにタイムスリップしたかのように見ほれてしまった。

その「当初感」をねらって図書館に入ろう。人気小説等を目玉商品にする本屋さんとは違い、ライブラリーセンターには数多くの文学類、論文集、研究専門書などが並んでいる。過去の書籍だらけなので、一見するとどうしても読書意欲をそそりづらく、レポート・論文作成の直前でないと足を運ぶ気がしないかもしれないが、実はさまざまな作品に貴重なアイデアが温存されているのである。つまり、図書館は大昔から現在までの優れた頭脳を生き生きと映しているところだと言える。

図書館はすばらしい。本がどれぐらい時間を経て、印刷紙がどれほど黄色っぽく古くなっても、あの感動は変わらずに、きっと後世の読者の胸をときめかせると信じている。

## 寄 贈 図 書

本学の教職員等から、下記のとおり図書の寄贈がありました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

書 名	寄 贈 者	
「薬学物理化学」	2冊	上森 良男 (薬学部教授)
「くすりの話」他	計9冊	三浦 雅一 (薬学部教授)
「おてんば珠姫さま！」	2冊	長谷川孝徳 (未来創造学部教授)
「鑑賞のための西洋美術史入門」他	計4冊	小林 忠雄 (未来創造学部教授)
「最新商業辞典」他	計4冊	小西 滋人 (未来創造学部教授)
「ORANGE BOOK 1：基礎薬学」他	計6冊	大本まさのり (薬学部准教授)
「ストレスに負けない脳：心と体を癒すしくみを探る」他	計6冊	杉山 朋美 (薬学部講師)
「薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学」		松原 京子 (薬学部講師)
「メイスン&ディクスン」他	計48冊	泉 洋成 (学事本部長)
「珠江デルタの地域社会：清代を中心として」他	計2冊	西川喜久子 (元外国語学部教授)
「緒方洪庵：幕末の医と教え」		鈴木 陸夫 (元未来創造学部教授)

## ★ 学生選書会……学生目線で読みたい本を選ぶ ★

本学では読書・芸術・運動に力を入れています。そのうち、読書推進の一環として、毎年学内ではブックフェアが行われています。今年初めてこのブックフェアを利用して、学生選書会を開催しました。太陽が丘キャンパスでは5月19日（木）、薬学キャンパスでは6月7日（火）にそれぞれの学部学生が実際に本を手に取り、内容を確認しながら、ライブラリーセンターで購入する本を選んでいきました。

選書会に参加した学生達からは、「自分の読みたい本が図書館で読めることは嬉しい。」や「図書を選ぶことによって読書意欲が高まります。」などの感想が示され、大変好評を得ました。

### 〈太陽が丘キャンパス：未来創造学部生の選書本〉

書名 / 著者名	出版社名
失言辞典 / 失言委員会編・著	学習研究社
何のために論語を読むのか：人生は孔子に教わる / 孔健著	致知出版社
国がダメでも「脳」がある：自分を`高度成長、させる55のヒント / 茂木健一郎著	朝日新聞出版
親日中国を旅する：日中友好の原点「辛亥革命100周年」記念!!	講談社
GE世界一強い会社の秘密 / ウィリアム・E.ロスチャイルド著；中村起子訳	インデックス・コミュニケーションズ
DELL世界最速経営の秘密 / スティーブン・ホルツナー著；二見聡子訳	インデックス・コミュニケーションズ
人治国家中国のリアル / 黒田健二著	幻冬舎メディアコンサルティング
中国人と日本人：グローバル環境への対応 / 久野勝邦著	早稲田出版
これだけは知っておきたい中国人の常識と非常識 / 大羽りん著	武田ランダムハウスジャパン
大震災・原発事故から命を守るサバイバルマニュアル100：こうすれば地震・放射能も怖くない!：ひとりでも生き残れ! / 地震・原発事故を考える会編	ミヤオビパブリッシング
こう動く!就職活動オールガイド / 成美堂出版編集部編	成美堂出版
就活：就職活動ナビゲーション：大学生のためのリアル就活本 / 日経ナビ&就職ガイド編集部編著	日経人材情報
辻式就職面接内定メソッド：「本当の面接力」がつく!面接官はココを見ている! / 辻太一朗著	新星出版社
Study style life hacks勉強法 / 佐々木正悟著	学習研究社
「笑う脳」の秘密!：賢い人のアタマは何が違うのか? / 伊東乾著	祥伝社
武道魂（ブドコン）レッスン：おうちでできる!budokonオフィシャルブック / ブドコン・ジャパン著	扶桑社
東電・福島第1原発事故備忘録：原子力利権とCO2地球温暖化説が日本を壊滅させた / 近藤邦明著	不知火書房
ひとり暮らし一年生：悩みの全てを一挙に解決します：見て笑っておもしろくてためになる：マンガ / 加藤友佳子カバー&イラスト；泉書房編集部編	泉書房
おふくろの味じまん：伝承の定番おかず	あうん舎エンタープライズ
焼きたてのパンとお菓子を召しあがれ / 向後千里編著	ひかりのくに
だいすきだよ。こばくちゃんと私 / きたがわめぐみ文・絵	サンマーク出版
心を整える。勝利をたぐり寄せるための56の習慣 / 長谷部誠著	幻冬舎
モギケンの音楽を聴くように英語を楽しもう!：学生・ビジネスマンがひとりのできる! / 茂木健一郎著	朝日出版社
シャドウ / 道尾秀介著	東京創元社



どの本がいいか相談しながら  
太陽が丘キャンパス2号棟1階



真剣に本を選ぶ  
薬学キャンパス本部棟1階

〈薬学キャンパス：薬学部生の選書本〉

書名 / 著者名	出版社名
不思議な不思議な「心理テスト」 / いたうやまね著	三笠書房
驚異!視覚トリックの世界：奇跡体験!アンビリバボー-presents / 鈴木光太郎監修	扶桑社
恋愛心理学 / 植木理恵著	青春出版社
本気になればすべてが変わる：生きる技術のみがく70のヒント / 松岡修造著	文芸春秋
「20代」でやっておきたいこと / 川北義則著	三笠書房
ちょっとしたことでかわいがられる人、敬遠される人 / 山崎武也著	三笠書房
月は誰が創ったか? / クリストファー・ナイト, アラン・バトラー著; 南山宏訳	学習研究社
破壊する創造者：ウイルスがヒトを進化させた / フランク・ライアン著; 夏目大訳	早川書房
幸せになる成功知能HQ：日本人の脳の進化の秘密 / 澤口俊之著	講談社
ゼリー*ババロア アイスクリーム*シャーベット：夏を涼しく。おうちでかんたん、ひんやりスイーツ59：Cool Sweets / 小菅陽子, 林口宰士著	グラフ社
人を思わず「うん!」と言わせることば美人のプチ・テクニック / 杉山美奈子著	KKベストセラーズ
真夏の方程式 / 東野圭吾著	文藝春秋
麒麟の翼 / 東野圭吾著	講談社
砂漠 / 伊坂幸太郎著	新潮社
鹿男あをによし / 万城目学著	幻冬舎
プリンセス・トヨトミ / 万城目学著	文藝春秋





## 卒業記念寄贈図書



薬学部の卒業生からは、より高度な専門知識・臨床教育などを身に付けるためのDVD及び専門書、本学が開学当初から力を入れている東洋医学の知識を身につけるための漢方に関する図書、本学の教育理念である人間力を高めるDVD、グローバル言語である英語を学ぶための一般書など計339冊を卒業記念図書として寄贈していただきました。

また、未来創造学部の卒業生からは、最近話題となったドラッカーの著作を中心としたマネジメント関係の専門書、教職課程や就職に関する対策本、楽しく外国語を学ぶための、海外のベストセラーやミステリーの原書、村上春樹著作の英訳本、人気コミックの英語版・中国語版など計647冊を卒業記念図書として寄贈していただきました。



### 平成23年度学術資料委員紹介



村田 和弘	学術資料部長、読書感想文審査委員	未来創造学部教授
渡辺 和人	副委員長、紀要編集委員長	薬学部教授
山崎 博久	紀要編集委員	未来創造学部教授
鍛冶 聡	読書感想文審査委員	薬学部准教授
一ノ木 進	読書感想文審査委員	教育能力開発センター准教授
小南 浩一	紀要編集委員	教育能力開発センター准教授
八木健太郎	読書感想文審査委員長、紀要編集委員	国際交流センター准教授

### 編集後記

英国スパイの映画『007シリーズ』が好評を博する一方で、同じく英国の作家であるサー・アーサー・コナン・ドイルは『勇将ジェラルドの冒険』の中で主人公の軽騎兵連隊の准将に「スパイのまね事をすることはできません。」と述べさせています。高度情報化社会到来の中で、人は如何なるスタンスとモラルを持って情報と向き合うべきなのか、不透明さの存在する現代です。図書館で古今東西の様々な書物を手にし、21世紀の今後の世界に思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。(柿木)

### CONTENTS

	頁
○ 書物のユートピア .....	1
○ 利用学生の声 .....	2
○ 寄贈図書 .....	5
○ 学生選書会 .....	6
○ 卒業記念寄贈図書 .....	8
○ 平成23年度学術資料委員紹介 .....	8



**北陸大学**  
HOKURIKU UNIVERSITY

北陸大学ライブラリーセンター報  
NO.31

平成23年 10月25日発行

編集・発行： 北陸大学ライブラリーセンター  
〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1  
TEL. 076-229-3021  
FAX 076-229-4850

ライブラリーセンターEメール： [tlib@hokuriku-u.ac.jp](mailto:tlib@hokuriku-u.ac.jp)  
北陸大学ホームページ： <http://www.hokuriku-u.ac.jp/>

印刷： カンタ印刷株式会社